

平成 29 年度 アユ遡上調査結果

1. 目的

武庫川では、アユを武庫川のシンボル・フィッシュとして位置づけ、魚類にとってより望ましい川づくりに努めている。

アユの遡上状況の把握を目的として実施した。

2. 調査概要

調査日程：平成 29 年 4 月 28 日 (8:50～15:30)

平成 29 年 5 月 22 日 (9:30～16:00)

調査方法：潜水目視調査（個体数カウント）

調査地点：1 号床止工～8 号床止工周辺

条 件：2 号床止工に簡易魚道を設置



4 月 28 日



5 月 22 日

写真 1 調査時の 3 号床止工の状況



図 1 調査位置図

3. アユの確認状況

アユは合計 3,828 個体を確認した。

下流の 3 号床止工での確認が最も多いが、2, 4～8 号床止工でも 300 個体以上が確認された。

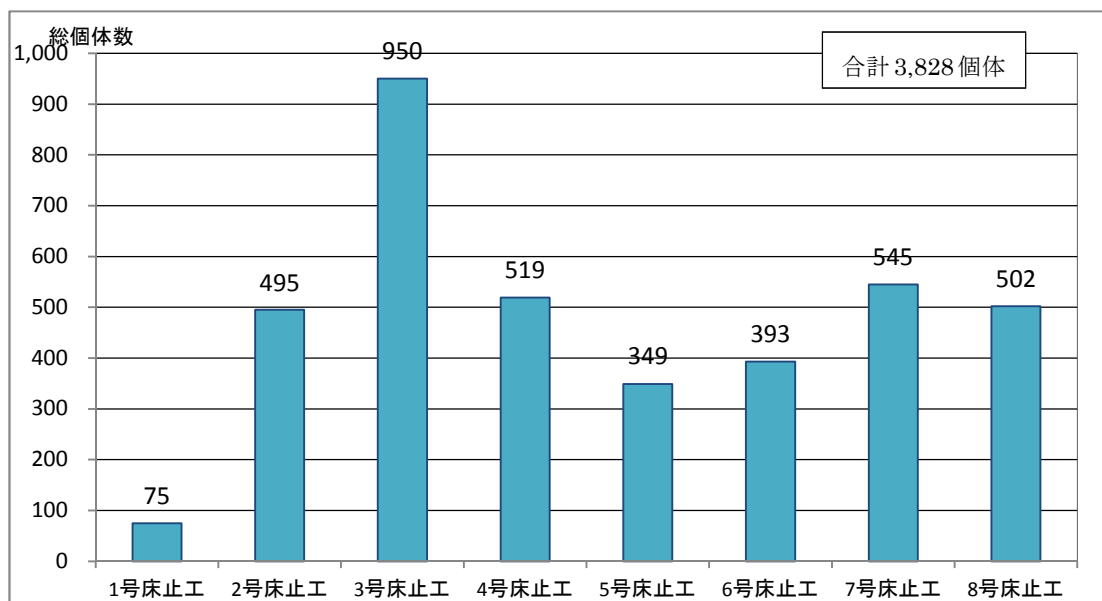


図 2 各床止工近傍のアユの個体数（4 月、5 月調査合計）

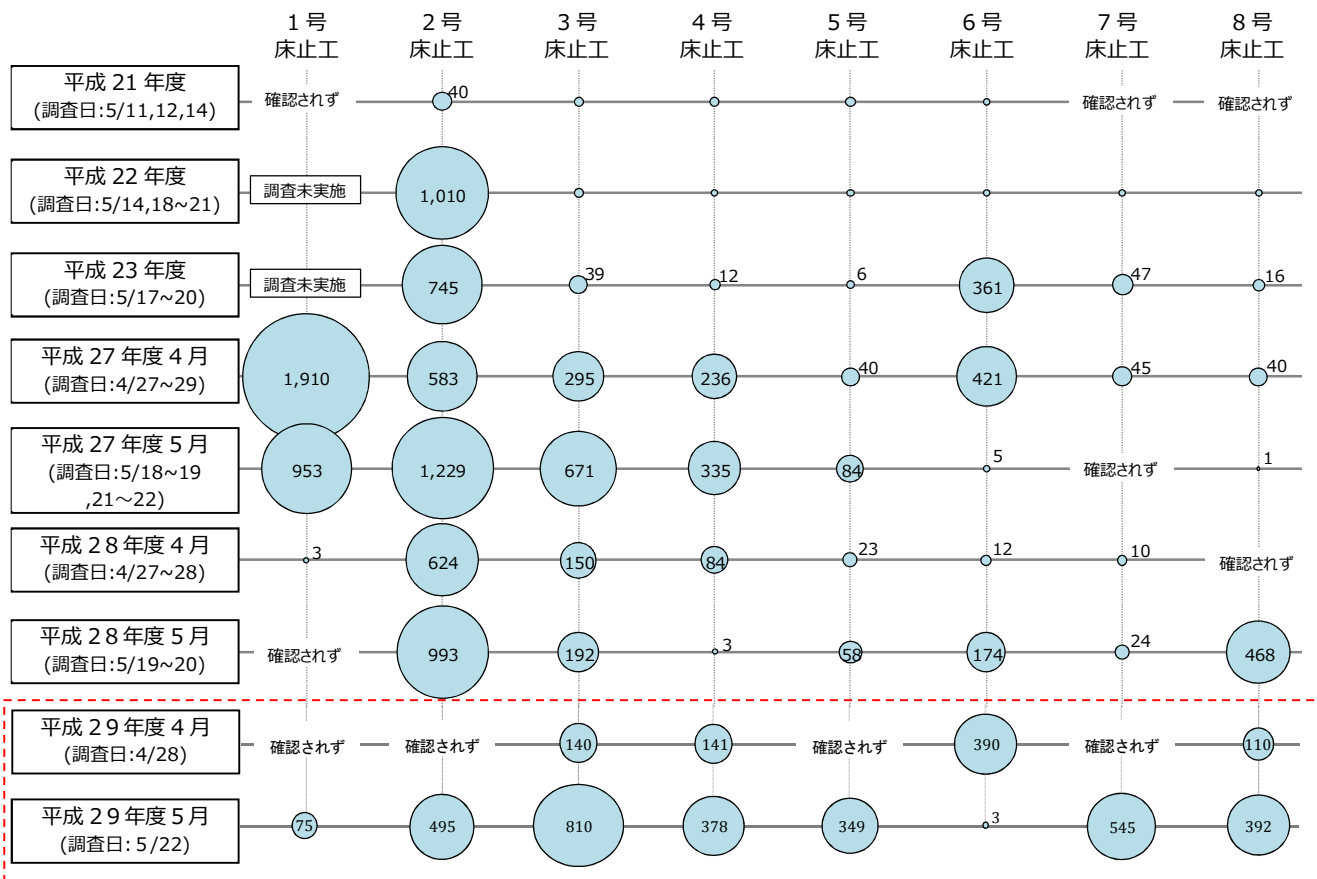


図 3 各床止工近傍のアユの個体数

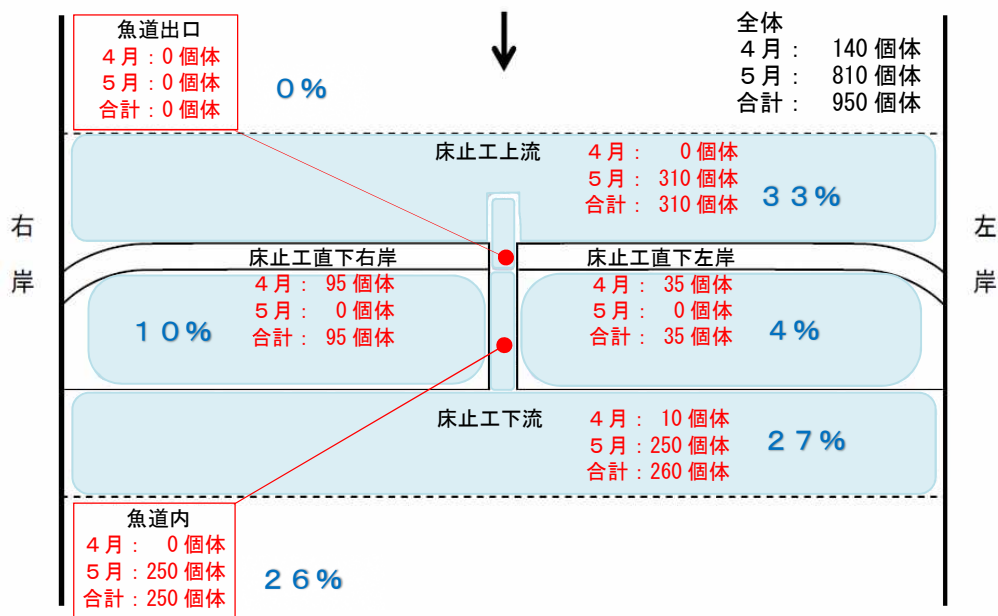


図 4 3号床止工近傍のアユの個体数

4. 結果のまとめ

- ・確認できた個体数は、下流の3号床止工が最大であるが、2号床止から上流の8号にかけて、300以上の個体数が安定して確認された。
- ・これまでの調査では、アユ個体数は2号床止工で最も多かったが、今年度は4月、5月調査いずれにおいても3号床止工でより多かった。これは、2号床止めに設置した簡易魚道および春季の増水によって、速やかに上流まで移動したことが要因だと考えられる。
- ・今年度の4月、2号床止めにおいてアユの確認個体数が確認できなかったのは、調査を4月17～18日の降雨等による出水後に行ったため、アユが既に遡上したためと考えられる。また、4月の調査時点で既に6号床止めまで遡上していることからその可能性が高い。なお、実際に遡上した数が、例年に比べて少ないかどうかは判別することは難しい。
- ・3号床止工直下において、アユは右岸側でより停滞していた。右岸側に何らかのかたちで魚道を設置することができれば効果的であると考えられる。

<参考>

現地調査中に、アユを含めて7目13科29種、計16,717個体の魚類が確認された。写真は、調査時に撮影できたアユ以外の魚類を掲載した。



ウナギ科 ニホンウナギ
(1、2、3、8号床止工)



コイ科 コイ
(全ての床止工)



コイ科 フナ属
(1、3、4、5、8号床止工)



コイ科 カマツカ
(3、6号床止工)



ハゼ科 ゴクラクハゼ
(1、2、4号床止工)



ナマズ科 ナマズ
(1、3、4、5、6、7、8号床止工)



アカザ科 アカザ
(6号床止工)



ボラ科 ボラ
(1、2、3号床止工)



ハゼ科 ウキゴリ属
(1号床止工)



ハゼ科 カワヨシノボリ
(2、3、4、5、6、7、8号床止工)

写真なし

コイ科 オイカワ (全ての床止工)

コイ科 スゴモロコ属 (2、4、5、6、8号床止工)